

# 日本小児歯科学会九州地方会

## — Newsletter —

2000年1月25日発行

### 九州地方会ニューズレターの発刊を祝して



九州地方会会長 中田 稔

このたび「九州地方会ニューズレター」を定期的に発刊することになり、ここにその第1号をお届けするに当たりましてご挨拶申し上げます。本誌が、会員同士の情報交換を通じて日々の小児歯科診療の発展にお役に立てること、また地域と本学会とをつなぐ大きなパイプとしての役割が果たせることなどを心より期待したいと存じます。

振り返ってみますと、日本小児歯科学会九州地方会が設立されたのは、昭和58年でした。もともと地方会の役割は地域に根ざした小児歯科医療の発展と地域と本学会との学術情報の交換を意図して、全国を6ブロックに分割して発足いたしました。それぞれの地域の情報によって地方会の活動状況にはいろいろな違いがあるように思われます。なかでも関東地方会は、東京に多くの小児歯科開業医が集中していたこともあって、当初より大学外の小児歯科医療に携わっている会員が中心となって運営され、ある意味では理想的な展開がなされて参りました。一方本会では、臨床医を中心として運営できるだけの会員数が十分には育っていないこともあって、大学側が運営の中心にならざるを得ないと云う背景がありました。

しかし、既に本会が設立されてから16年が経過した現在、運営の中心を開業医主体に移して、地域に根ざした小児歯科医療と学術の発展に資するという本来の目的を達成しようと、平成11年度の地方会総会において役員構成の変更等、今後の本会の運営にとって重要かつ有意義な会則の変更が承認されたわけでありました。その詳細は本誌にも集録されておりますので、どうぞご覧ください。

今や、医療の方向が疾病の治療から、健康の育成と維持の方向へ志向しつつあるなかで、とくに小児歯科においては、積極的な口腔衛生思想の確立、健全な咀嚼器官の育成という方向で展開しつつあることは明白であります。8020運動の実現に向かって、歯科医療体系が大きくカーブしようとしている時点にあることを私達は十分に意識して、小児歯科の行く末をしっかりと見定めるためにも、本会の役割はますます重要性を増やして行くものと確信しております。

今後の本誌の発展と充実はもちろんのこと、会員皆様のご発展を心より祈念したいと思えます。

## 『第17回日本小児歯科学会九州地方会大会および総会 北九州女性センタームーブにて開催される』

大会会長 橋本 敏昭

第17回日本小児歯科学会九州地方会大会及び総会が平成11年10月16日に北九州市立女性センタームーブにて開催されました。当日は様々な行事が重なっており、土曜日ということもあって参加者数が少ないのではないかと懸念されておりましたが、約400名もの参加者および65社にも及ぶ協力を得て盛会のうちに大会が行われました。来賓として北九州市長の末吉興一先生ならびに北九州市歯科医師会会長の秋野公夫先生直々にご挨拶をいただきました。

今回は少子高齢化時代に入り、来るべき21世紀に向けて小児歯科医療はどのような方向へ向かうのか、医療行政も大きな変革期を迎え、小児歯科医療の最新情報を交えながら、その最先端を学ぶことは非常に意義のあることであるとの認識に立ち、メインテーマを「21世紀に向けての小児歯科医療の最前線」としました。

会場はA, B, C, D, Eの5会場で行われ、A会場では教育講演として九州歯科大学歯科麻



橋本敏昭大会会長（北九州市開業：右）と牧 憲司準備委員長（九州歯科大学：左）

酔学講座の仲西修教授に「小児歯科における救急処置」というテーマで麻酔の使い方や小児歯科での呼吸管理の重要性について講演していただきました。身近なテーマだけにDr. スタッフ共々真剣に聞き入っていました。引きつづき教育講演として同大学の安細敏弘助教授による「カリエスリスクの理論と実際」というテーマで



総会では末吉 北九州市長にもご挨拶いただいた



地方会大会会場での記念写真

カリエスになる前のプロセスに対する治療の重要性及びカリエスリスクの判定法などがあり新時代を予感させる講演でした。午後より特別講演として大阪大学歯学部小児歯科学講座の祖父江鎮雄教授に「小児う蝕の抑制—現状と課題—」というテーマで教授の研究を中心としながら現在まで明らかにされている部分の整理と将来予測、来年度の医療保険制度抜本改革との絡みなど非常に深みのある貴重なご講演をしていただきました。最後に「21世紀へ向けて小児歯科医療を考える」というテーマでシンポジウムが行われました。大きなテーマであったために講師の方々には多少時間が足りなかったようですが活発な討議がなされ小児歯科の将来像が見えてきた感がありました。B会場では「小児歯科患者との心のふれあい」というテーマでコ・デンタルスタッフシンポジウムが開催されました。経験豊かな衛生士さんたちの講演はまさに現場を彷彿とさせるものでした。抑制具を積極的に使用していない病院が多かったようです。C会場ではポスターセッションが行われ活発な討議がなされ、D会場では時代の最先端を行くコ

ンピューターの展示発表が行われました。実際のデモを見て感動された先生方も多かったようです。E会場では31社による歯科器材展示会が開催され活気があふれていました。懇親会は九州厚生年金会館にて150名以上の参加を得盛大に開催されました。今年はスピーチを中心とし各大学の新人医局員の紹介や九州地区に12ある研究会の代表の方々にもお話をさせていただき、話は尽きないようでしたが次期開催地である福岡へバトンタッチをして閉会となりました。最後に大会を開催するにあたりご協力いただきました関係各位に厚くお礼申し上げます。

## 『小児歯科九州地方会の活性化に思う』

人吉市開業 松本 晋一

10月16日（土）の北九州市小倉での第17回地方会は、盛会裏に閉会し開催関係者の皆様にはホッと一安心というところでしょう。今回の開催は次世紀にふさわしい素晴らしい企画内容、女性センターというスマートな会場設定で、とても良い雰囲気の中で和やかな会であったかと思えます。シンポジウムやコデンタルの分科会は特に評判が良かったようです。また、懇親会の方も盛り沢山のご馳走で主宰者の皆様には感謝申し上げます。

会の前日には、地方会熊本県代表委員ということで夕刻から九州歯科大学での会議にも出席しましたが、その中で、この地方会組織の今後の新しい改革案を2年後には実現に移すという合意がなされ翌日の総会でも報告承認されました。私ども開業医が主体的に企画参加すべく地方会へとしての一步を踏み出したこととなります。そこで、今までの地方会開催内容の経過を踏まえて、2、3個人的な感想を思いつくままに述べてみますと、

### <実績のプラス面>

- 1) 17年間九州の地方会として、各都市持ち回りで、特色ある企画で開催された
- 2) 5大学と各開催地が一丸となった実績を作った
- 3) 会員及び会員外であるコデンタルスタッフを含めた企画が設定されてきた
- 4) 講演発表からパネル発表への移行など、中味が充実してきた



### <評価のマイナス面>

- 1) 会の内容が大きくなり、担当者や開催地の運営、経費の負担が大きい
- 2) そのわりには、開業医の参加、コデンタル、小児関係者の参加がいまいち少ない
- 3) 小児歯科の存在を地域や行政にアピールする機会として利用していない（外部広報不足）
- 4) 会の内容が、会員外や参加出来なかった会員に伝わりにくい（内部広報不足）
- 5) 開催地の持ち回りの再検討、企画規模と内容の再検討

今後、来る20周年の節目までに、地方会各県代表委員間の関係を取り合い、会員は勿論、会員外の方々が気軽に、楽しく、かつ興味深く参加できる地方会に育って行って欲しいと願うところです。

また、このニューズレターも地方会の実績や評価につながるという意味でも大いに活用すべきと考えます。次回の福岡での地方会企画に期待しています。

## 『小児歯科患者との心のふれ合い』 シンポジウムを終えて

小児歯科柏木医院（福岡市） 歯科衛生士 岩男 好恵

久しぶりのシンポジウム。若い皆さんは、準備万端と原稿を持ち会場に現れた。その様子を見て、少し不安に。実は、一週間ほど前、院長に“学会は、いいのかな？”の言葉にソーダー！と焦り始め、日頃取っているアンケートを集計し、スライドを作成、何とか間に合いシンポジストを務めることが出来ました。そういえば何年前までは、病院を挙げて、みんなで準備を手伝ってくれたのですが・・・。とても昔が、懐かしく思い出されました。

しかし、今回のシンポジウムをやることで日々の診療内容を再確認し、今後の衛生士としての仕事の見直しもできた事に対しては、とても感謝しています。

と言うのもこの頃、小児歯科の診療内容が少しずつ変化しつつあるを感じていました。それは、



これまで低年齢児の予防や咬合誘導を中心に診療を行っていましたが、近頃では中学生や高校生も多くなり、歯周疾患の予備群が増えてきたことです。実際に今回の結果でも、リコール継続が5年以上が50%以上いるとのこと。今後、徐々に中・高年生が増えてくることが予測されます。しかし、この年代歯磨きはやらなければいけないことは、重々、承知していますが、受験やクラブと忙しい毎日を送っていて、口の中には、興味が無いのが実態です。そこで、せめて彼ら自身が疾患が起きる前にセルフケアが出来るよう、確実なブラッシング法や予防法など、的確なアドバイスを与えていきたいと日々そのための手段を考えていますが……。今の所、ベストの方法は、見つかっていません。特に難しい年代ですが、一生の歯の寿命を決めると言っても過言ではない時期です。早く、歯の大切さを知って欲しいと誤行錯誤の毎日です。



スナップ写真付ひとことメッセージ



今年で地方会も18年目を迎え、私達の地方会も青

年期になってきました。去年より九州と関係の深い韓国より、小児歯科学会副会長の全北大学歯科大学白(ペグ)教授にお褒めの言葉をいただきました。今、私たちの地方会も大きく変わろうとしています。何より歯科界自身が大きく揺れています。歯科界にとっては冬の時代とも言われていますが、冬の後には必ず春が来ると信じています。これからも九州の特色を生かした地方会にしたいものです。

福岡歯科大学 尾崎 正雄



まずは、ニューズレターの発行おめでとうございます。写真は、地方会懇親会での、中田先生、細矢先生との3ショットです。懇親会では、恒例の新人紹介がありました。今年例年以上に個性的な新人の先生方が多かったように思います。最近の歯科業界は、決して明るい話題ばかりではありませんが、そのパワーをこれからの小児歯科の臨床に生かして、頑張っていたきたいと思います。

福岡市開業 山口 昭一



世紀末を迎えて、心から愛すべき小児歯科学が知

らず知らずに横道にそれてしまいそうで気がかりでなりません。時と共に初心が風化し、創造から根柢のない安定と形骸化へ、社会的から個人的に、借り物の知識であることを忘れて確立した権威への誤解、ローマ帝国、スターリン、ポルポトなどなどいつの間にかおこる人々の崩壊への道程。思春期にも至らない小児歯科にアポトーシスはまだ早い。社会性を充分考慮し、学問的整合性を示しながら小児歯科の Identity をそれぞれの関わりのある役割のなかで協調しあい確立していこうではありませんか？ 挑戦と反省と創造の繰り返しの中で、若い人々の想像力と純粹性に期待し、医療の真に貢献できる小児歯科学のために今、悩みながらも吼えています。

鹿兒島大学 森主 宣延



最近、高齢者医療とか介護医療についての声はよく耳にします。しかし小児歯科医療の重要性についての声はあまり耳に入らないのが現状ですが、8020運動の目標達成の為に成長発育期での保護及び管理は極めて重要なことです。地方会においてここ10年間開業医中心ということが幾度も議題に挙げられてきましたが、開業医中心という言葉のみが一人歩きをしている様に思います。将来における本会の活動として従来の教育的事業(学会)に加えて各地域における行政や学校保健、隣接医学、地域住民、若い歯科医師等に対して小児歯科医療の重要性をアプローチし、かつ啓蒙し浸透させていくことが、21世紀へ向け我々が生き残れる最大の課題だと思います。その為にも開業医会員相互の情報交換機構を高め、強い問題認識と自立を持って取り組んでゆることが重要ではないでしょうか。

熊本県開業 瀬尾 令士



「子供は時代の鏡、社会の鏡」と言われます。私が小児歯科というレンズから子ども達を見た15年間にも、う蝕洪水からう蝕の減少、予防や矯正を希望し来院する人の増加、また、アレルギー性疾患や心の病気の増加、、、などさまざまな変化をみる機会がありました。それとともに診療内容も、「病気の専門家」としての治療だけでなく、発達上の問題、全身のこと、育児や親子関係、こころの問題、、、など、さまざまな相談をされる総合相談窓口のようになりました。

ヘルス(健康)の語源は、ホール(すべて、全体)と言われ全身の状態を示すものだそうです。WHOの健康の定義にもあるように、人間は広く深い心と身体をもち、社会の中で自分の夢や信じる魂に従い、限られた一生を幸せに(健康に)生きたいと願うかけがえのない存在です。すべての基礎ができる大切な子ども時代に、「人間の専門家、健康の専門家」としてサポートできるのはとても嬉しいことです。そして、私たちのすべきことはこれからますます広がっていくような気がします。

小児歯科九州地方会は、高い理想と志、そして身近なネットワークと軽快なフットワークをもった魅力的な会です。これからもその存在価値を発揮して、子ども達の健康や未来のためにすてきなことができる楽しい会に発展して行ってほしいと思います。そして、私にもできることがあれば、協力したいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

福岡市開業 西本美恵子



「長崎大学の若手でえ～す。食ってまあ～す。」

「誰、このヒゲ？」

「新人でえ～す。よろしく～」

長崎大学 大町 耕市



地方会を終えての小倉での夜。長崎大の先生方との  
おいしいお酒のお・い・し・い♥お話し。またの再会  
を誓って小倉の夜をあとにしたのでした。

九州大学 猪之鼻美和

## 議 事 報 告

### 1) 日本小児歯科学会九州地方会幹事会報告

日時：平成11年10月15日(金)、午後4：00～5：20

場所：九州歯科大学附属病院 11階大会議室

#### 1. 日本小児歯科学会九州地方会会長挨拶

九州大学、中田教授から挨拶。

#### 2. 報告

##### ・第16回日本小児歯科学会九州地方会会計報告

瀬尾大会会長から別紙決算報告書にしたがって報告があった。

##### ・第16回日本小児歯科学会九州地方会会計監査報告

中尾監事から監査報告があり、その後、役員の承認が得られた。日本小児歯科学会からの援助金の額について質問があったが、九州地方会では、80%を地方会大会事務局、20%を地方会学会事務局が使用することが平成9年度の幹事会で決定している旨の説明があった。

##### ・第17回日本小児歯科学会九州地方会大会準備状況について

橋本大会会長、牧準備委員長から説明があった。

##### ・第18回日本小児歯科学会九州地方会大会について

柏木大会会長から、日程(平成12年10月15日)、会場(福岡県歯科医師会館)担当(九州小児歯科集談会、九州大学歯学部小児歯科学教室)ほかについての説明があった。

#### 3. 議題

##### ・総会式次第について

式次第案について、別紙にしたがって順を追って二木幹事から説明があった。『日本小児歯科学会九州地方会臨時役員会議事報告』の項を7月29日の臨時役員会に加えて本日(10月15日)の役員会も含めて報告することで了承が得られた。また、今後総会では当該年度に開催した役員会すべての報告を行うということが確認された。

平成12、13年度日本小児歯科学会九州地方会会長について

中田会長から次期会長候補として福岡歯科大学、本川 渉教授の推薦があり了承された。



学内、学外幹事については既に各大学で選出がされているため、総会で本川次期会長が承認された後、副会長および監事の会長委嘱を行って、新役員を構成することとなった。

・第19回日本小児歯科学会九州地方会大会開催地について

鹿児島大学、小椋 正教授から、吉元辰二先生を大会会長として鹿児島市にて開催したい旨の提案があり、承認された。

・その他

\*2002年開催の第20回大会の開催担当ほかについて、フリーディスカッションが行われた。7月の臨時役員会の決定にしたいが、九州地方会の開業医担当とすることが再確認され、2000年の役員会までに開催地、大会会長、サポートする担当大学などの概略を決めることとなった。

\*地方会ニューズレターについて質問が出され、二木庶務会計担当幹事から内容の概略、発行時期などについて説明があった。

\*認定医制度の変更で、特に更新資格として学会発表（ケースプレゼンテーション含む）が必要となる予定であるため、地方会としての対応が必要となるとの指摘がされた。また、今後ニューズレターなどでこれらに関する情報を提供してほしいとの意見が出された。

2) 日本小児歯科学会九州地方会幹事・県代表委員合同会議報告

日時：平成11年10月15日（金）、午後5：20～6：30  
場所：九州歯科大学附属病院 11階大会議室

1. 日本小児歯科学会九州地方会会長挨拶

九州大学、中田教授から挨拶。2002年開催の第20回大会は九州地方会の開業医担当とすることが幹事会で確認され、来年の役員会までに概略を決めることとなった旨の報告があった。また、本会議では特に地方会会則変更について討議したい旨の説明があった。

2. 日本小児歯科学会会長挨拶

木村日本小児歯科学会会長から日本小児歯科学会の最近の動向なども含め挨拶があった。

3. 議題

(1)地方会会則変更について

- ・中田会長から、現在までの経過について、7月の臨時役員会の議事録を中心に説明があった。
- ・7月の臨時役員会に提出され討議された地方会会則変更案を、討議結果にしたがって地方会事務局でさらに修正を加えた案が再提出された。
- ・中田会長から別紙変更案について順を追って説明がなされた。
- ・とくに大きな変更点である役員選出方法（第7条）と各県選出の幹事数、役員会の構成（第5条）については討議の後、合意が得られた。
- ・事務年度については日本小児歯科学会本会との整合性もあるので、現行どおり、4月1日から翌年3月31日とすることとなった。
- ・変更案を翌日の総会で議事として提出するか否かについて討議された。

さらに細かい検討が必要であるとの意見も出されたが、議長提案として、総会で大筋を認めてもらった後に実際施行される平成13年4月までに語句修正などの細部は検討するという方法案が出され、多数決にて決定された。

- ・用語の使い方や統一性、表現方法などについて意見や指摘があった。
- ・上記の意見や指摘にしたがって、地方会事務局で表現を若干変更したものを変更案として総会に諮ることとなった。

3) 第17回日本小児歯科学会九州地方会総会報告

- ・開会の辞 二木幹事
- ・日本小児歯科学会九州地方会会長挨拶

九州大学 中田会長から挨拶があった

- ・第17回日本小児歯科学会九州地方会大会会長挨拶  
橋本大会会長から大会の内容紹介も含め挨拶があった
  - ・日本小児歯科学会九州地方会役員会議事報告  
中田会長から7月29日の臨時役員会および10月16日の役員会の議事内容について報告があり、とくに地方会会則変更については議事にて検討いただきたい旨の要望があった。
  - ・議長選出  
森高先生が選出された
- 議 事
- ・第16回日本小児歯科学会九州地方会会計報告  
第16回大会会長の瀬尾先生からスライドにて報告があった。中尾監事から監査報告がされた後、了承された。
  - ・平成12、13年度日本小児歯科学会九州地方会会長  
中田会長から福岡歯科大学本川教授を次期会長に推薦したい旨の提案があり、了承された。引き続き、本川次期会長から挨拶があった。
  - ・第19回日本小児歯科学会九州地方会開催地について  
中田会長から鹿児島市にて吉元辰二先生を大会会長として開催したい旨の提案があり、了承された。
  - ・その他  
中田会長から、役員会で了承された地方会会則変更案について別紙資料にしたがって説明があり、了承された。
  - ・第18回日本小児歯科学会九州地方大会会長挨拶  
大会会長の柏木先生から日程、会場、担当ほかについての説明があった。
  - ・閉会の辞 二木幹事

## 日本小児歯科学会九州地方会会則

(平成11年10月16日一部改正)

- 第1条 本会は日本小児歯科学会九州地方会と称する。
- 第2条 本会は小児歯科を通じ地域の小児保健の向上に貢献するとともに必要とされる調査研究を行い発表と知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会の事務所は別に定める所におく。
- 第4条 本会の会員は九州地区ならびに沖縄県に居住する日本小児歯科学会会員で構成する。
- 第5条 1. 本会に次の役員を置き、役員会を構成する。
  - 会長 1名
  - 副会長 2名
  - 幹事 若干名  
(うち会長、副会長、庶務幹事、会計幹事の5名を常任幹事とする)
  - 監事 2名2. 役員任期は、2カ年とする。ただし再任は妨げない。  
なお、役員は九州地区ならびに沖縄県に居住するものに限る。
- 第6条 1. 会長は本会を代表し会務を総括する。  
2. 副会長は会長を補佐し、会長が職務を執行できない場合、職務を代行する。  
3. 常任幹事は会務に必要な事項を企画し、審議し、これを執行する。  
4. 幹事は本会運営に参画し、本会の円滑な運営を計る。  
5. 監事は会計及び会務を監査する。
- 第7条 1. 次期会長は、役員会が候補者を推薦し総会で決定する。  
2. 幹事は九州地区ならびに沖縄県から選出された代表者とし、その数は各県の会員数に照らし合わせて別に定める。  
3. 副会長および庶務幹事、会計幹事は幹事から会長が委嘱し、常任幹事とする。  
4. 監事は会長が委嘱する。  
5. 次期役員は総会で決定する。
- 第8条 本会は毎年1回総会を開き会務の報告、会



則の改正、役員を選出、会計報告ならびにその他の議事を決定する。

第9条 本会は毎年1回会員による発表ならびに教育的事業を行う。

第10条 本大会は当日会費を徴収できる。なお会費は開催主体が役員会に提出し、裁決にて決定する。

第11条 本会には顧問をおくことができる。

第12条 本会の事務年度は4月1日より翌年3月31日迄とする。

第13条 第8条の規定にかかわらず付則2の変更に限り、役員会において行うことができる。

#### <付 則>

1. 本会則は昭和58年4月から施行する。  
本会則は平成13年4月から施行する。
2. 本会の事務局は、  
〒814-0175 福岡市早良区田村2-15-1  
福岡歯科大学小児歯科学講座  
TEL:092-801-0411 (内線656)  
FAX:092-801-4909

#### <幹事選出に関する申し合わせ>

1. 幹事の選出にあたっては、各県の実情にあわせた方法で行う。
2. 各県選出の幹事数は以下のように定める。ただし、大学所在の県では各大学から1名を幹事に選出する。

福岡県5名(うち大学3名)、佐賀県1名、長崎県3名(うち大学1名)、大分県1名、熊本県2名、宮崎県1名、鹿児島県3名(うち大学1名)、沖縄県1名の合計17名とする。

## 日本小児歯科学会九州地方会役員 (平成10・11年度)

会 長	中田 稔	(九州大学)
副会長	本川 涉	(福岡歯科大学)
	柏木 伸一郎	(九州大学)
常任幹事	小椋 正	(鹿児島大学)
	木村 光孝	(九州歯科大学)
	後藤 譲治	(長崎大学)
	中田 稔	(九州大学)
	本川 涉	(福岡歯科大学)
幹 事	内上堀 征人	(九州歯科大学)
	柏木 伸一郎	(九州大学)
	久保山 博子	(福岡歯科大学)
	瀬尾 令士	(福岡歯科大学)
	樽美 哲生	(長崎大学)
	橋本 敏昭	(九州歯科大学)
	二木 昌人	(九州大学・庶務会計担当)
	細矢 由美子	(長崎大学)
	堀川 清一	(鹿児島大学)
	森主 宣延	(鹿児島大学)

地方会推薦学会理事 柏木 伸一郎

監 事 尾崎 正雄 (福岡歯科大学)  
中尾 哲之 (九州大学)

## 日本小児歯科学会九州地方会 県代表委員

木松 敏郎	(大分県)
曾我 富美雄	(福岡県)
品川 光春	(長崎県)
立川 義博	(佐賀県)
坪水 良平	(鹿児島県)
西田 賢三	(宮崎県)
西本 美恵子	(福岡県)
真境名 由守	(沖縄県)
松本 晋一	(熊本県)

## 日本小児歯科学会九州地方会 次期会長ご挨拶

福岡歯科大学 本川 渉

先日の第17回日本小児歯科学会九州地方会におきまして、21世紀に入る平成12年度と13年度の2年間にわたり中田会長の後を引き継いで、九州地方会の会長をお引き受けすることになりました。浅学非才ではありますが、これまで各会長先生並びに会員の皆様のご努力、ご尽力により発展してきた九州地方会の更なる前進に向けて頑張りたいと思いますので、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



九州地方会も昭和58年の第一回地方会開催から16年が過ぎました。スタート当初よりいずれは開業医の先生方が中心になるようにということが言われてきました。しかしこれまでは主に5大学を中心に動いていました。最近では各県代表の開業医の先生が役員会のメンバーとして加わり、役員会の構成も変化してきています。将来開業医の先生方が中心で運営されるための過渡期と考え、それが円滑に進むようにこれから努力していきたいと思っております。

21世紀を目前にして時代は変革の時代といわれます。我々の小児歯科医療を取り巻く環境は厳しいものがあります。特に少子化は大きな問題です。将来の日本を背負って立つ日本の子供達の口腔環境の改善のために全力を傾けていきたいと思っております。

今後とも皆様方のご指導ご鞭撻のほど、よろしくようお願い申し上げます。

## 日本小児歯科学会九州地方会役員 (平成12・13年度)

会 長 本川 渉 (福岡歯科大学)

副会長 瀬尾 令士 (福岡歯科大学)  
品川 光春 (長崎県)

常任幹事 小椋 正 (鹿児島大学)  
木村 光孝 (九州歯科大学)  
後藤 譲治 (長崎大学)  
中田 稔 (九州大学)  
本川 渉 (福岡歯科大学)

幹 事 内上堀 征人 (九州歯科大学)  
尾崎 正雄 (福岡歯科大学・庶務会計担当)  
柏木 伸一郎 (九州大学)  
久保田 一見 (長崎大学)  
瀬尾 令士 (福岡歯科大学)  
田口 知義 (長崎大学)  
春岡 龍男 (九州歯科大学)  
二木 昌人 (九州大学)  
森主 宣延 (鹿児島大学)  
吉元 辰二 (鹿児島大学)

監 事 橋本 敏昭 (九州歯科大学)  
入江 英仁 (熊本県)

## 第18回日本小児歯科学会九州地方 会大会および総会のご案内

福岡市開業 柏木伸一郎

橋本大会会長におかれましては、第17回日本小児歯科学会九州地方会の開催誠にありがとうございました。先生を見ておりましたら、私が大会会長として大会を運営できるか不安になってまいります。しかし、九州各地を順番に回るということで、来年の学会は精一杯務めさせていただきます。また、今まではどちらかと言うと、大学が主体の感がありましたが、平成13年4月から会則の一部変更があり、地方会の組織自体開業医の役割がより重要になってきます。

このような状況を受けて、来年の学会の企画は私達九州小児歯科集談会、即ち開業医主体で極力考えていきたいと思っております。現在のところ、概要はおぼろげにしか決定しておりませんが、西暦2000年をキーワードに、1900年代を振り返りつつ小児歯科の新たなスタートの第一歩としたいと思っています。

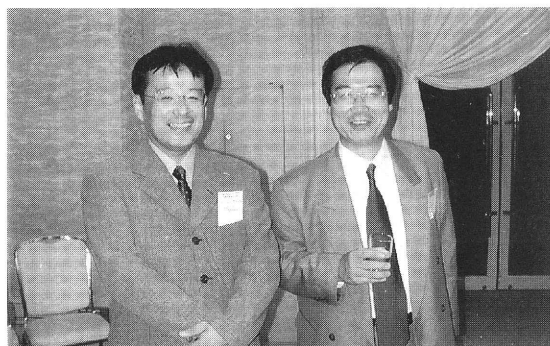
乞うご期待の上、皆様方の多数のご参加をお願い申し上げます。

開催日 : 平成12年10月15日(日曜日)  
会場 : 福岡県歯科医師会館  
大会会長 : 柏木伸一郎  
準備委員長 : 井植 浩雄  
顧問 : 中田 稔  
事務局 : 小児歯科柏木医院内  
〒810-0001  
福岡市中央区天神3-16-15

サンヨービル4F

TEL 092-781-5927

FAX 092-712-4234



### 九州地方会事務局から

とりあえず西暦2000年記念? ミレニアムニューズレターが発行できました。原稿をお寄せ下さった方々に感謝いたします。今まで定期的に発行されているものを引き継いだわけではありませぬので、内容や体裁についてご批判やご意見をいただきたいと思っております。最近ではインターネット、イントラネット、e-mail時代です。そこで、以下の点につきまして、e-mailなどをいただけると幸いです。

- 1) 平成13年度からの会則は総会にて可決されましたが、語句修正の細部は実施されるまでに検討することとなっています。用語や表現方法などについてのご意見、ご提案がありましたらお願い致します。役員会に提出し、検討致します。
- 2) 日本小児歯科学会九州地方会へのご意見、ご希望、ご質問等お寄せください。
- 3) ニューズレターを読まれた感想、今後ニューズレターに掲載してほしい情報、内容、コーナーなどのアイデアがありましたらお寄せください。皆様の読む気がおこるようなニューズレターにしたいと思います。

(庶務・会計担当幹事 二木 昌人)

#### 日本小児歯科学会九州地方会事務局

(平成10・11年度)

福岡市東区馬出3-1-1

九州大学歯学部小児歯科学教室内

TEL: 092-642-6402

FAX: 092-642-6468

e-mail: nakatam@dent.kyushu-u.ac.jp (中田 稔)

futam@dent.kyushu-u.ac.jp (二木昌人)